

## CONTENTS

巻頭エッセイ「市民活動をサポート！」 P1

### 想いを同じくする皆様と

TOTO株式会社滋賀工場・滋賀第二工場  
工場長 枝國 聡司さん

おうみ未来塾リレーエッセイ P2

### 目的を成就したくば仕組みをつくって動かせ!

おうみ未来塾 第9期生  
「遊人里(ゆとり)グループ」  
南村 多津恵さん

特集●「寄付を、考えてみる」II P2~5

<事例1>こんなに応援されるとは  
観音ガール/観音の里コーディネーター 對馬 佳菜子さん  
<事例2>買い物が応援に  
合同会社MediArt 代表社員 植田 淳平さん

市民と企業のChangeにチャレンジ! P6~7

- 音と花と人と
- NPO法人好きと生きる
- 特定非営利活動法人 縁活
- 37company合同会社

Changeにチャレンジ! 応援BOX P8

滋賀でサステナブル社会をめざす市民情報交流誌  
Collaboration Paper for Voluntary Network in Ohmi



# あづか ネット

淡海  
2021  
114

Spring

発行日/2021年3月1日  
発行所/公益財団法人 淡海文化振興財団



社会福祉



障害者支援



若者支援



世間よし



## 巻頭エッセイ●市民活動をサポート!

### 想いを同じくする皆様と

TOTOグループは、「きれい」と「快適」「環境」「人とのつながり」の3つのミッションを掲げ、これらを実現するため「TOTOグローバル環境ビジョン」を推進し、持続可能な開発目標(SDGs)にも貢献していきます。「環境」に関する様々な活動の中で、「TOTO水環境基金」により、地域課題の解決に寄与する市民活動を支援しています。同基金ではTOTOグループ社員から選出された選考委員による自社選考を行い、「地域に根差した活動となり得るか」「一過性ではなく継続的な活動か」という点を中心に、想いを同じくする団体とともに活動しています。

2011年から、同基金に申請をいただいた「NPO法人 家棟川流域観光船」様の「家棟川で生態回廊を再生! ピワマスが遡上する川に」に参画し、魚道の設置や産卵床の造成活動などを地域の皆様とともに活動しています。琵琶湖・流入河川について学ばせていただき、ピワマスの遡上が確認できたときには、ともに汗を流した皆様と喜びを分かち合っています。

TOTO株式会社滋賀工場・  
滋賀第二工場  
工場長 枝國 聡司さん



ピワマス産卵床造成の様子▶



Ohmi Network Center

淡海ネットワークセンター

公益財団法人 淡海文化振興財団

# 「寄付を、考えてみる」II

寄付についてももう一度みなさんと一緒に考えてみたいと、連載で企画しました「寄付を、考えてみる」。

2回目の今号は「寄付をする」というアクションに焦点をあててみました。資料からみる「寄付をする」現状、そして寄付をする方法のひとつとして定着しつつあるクラウドファンディングでは、その事例からどんなことがうまれたのか。そして、そもそも寄付はお金だけ？日々の買い物から地元を応援する「BUY LOCAL」プロジェクトの事例とともに、「寄付をする」から何がみえてくるでしょうか。

## おうみ未来塾 リレーエッセイ

### 目的を成就したくば 仕組みをつくって 動かせ!

学生時代に阪神・淡路大震災のボランティアに参加することから始まった市民活動歴も四半世紀を超えました。

おうみ未来塾には滋賀に越してきた翌2007年に地域を知る機会にと参加し、「自然体験型子育て支援事業あまのじゃくくらぶ」を実施しました。中間発表会で運営委員の先生方から「継続できるような仕組みをつくりなさい」という課題をいただきましたが、クリアすることができず、私たちの活動は卒塾後1年で幕を閉じました。

2009年に「輪の国びわ湖推進協議会」を立ち上げました。ピワイチ(びわ湖一周サイクリング)をきっかけに自転車のファンを増やし、自転車が使いやすいまちづくりを進め、滋賀を健康的で環境に調和した地域に変えていこうと活動しています。途中から行政の動きも加わり、今では協働で多くの事業を進めています。自転車まちづくりとは地域プロデューサーになるということだと実感しつつ、やっと課題をこなせたことに胸をなで下ろしています。

これまでの経験を活かし、ビジョンを明確にして目標を掲げ、実現に向けてステップを描き、着実に達成していくというプロジェクト運営のノウハウを提供する活動を個人として始めました。こちらは仕組み化にはまだ至りませんが、未来塾での学びを胸に、同志の頑張りに励まされながら歩みたいと思います。

おうみ未来塾第9期生  
「遊人里(ゆとり)グループ」

南村 多津恵さん

・くうのくらすの創造舎

<https://gen3127.wixsite.com/kuunoru>

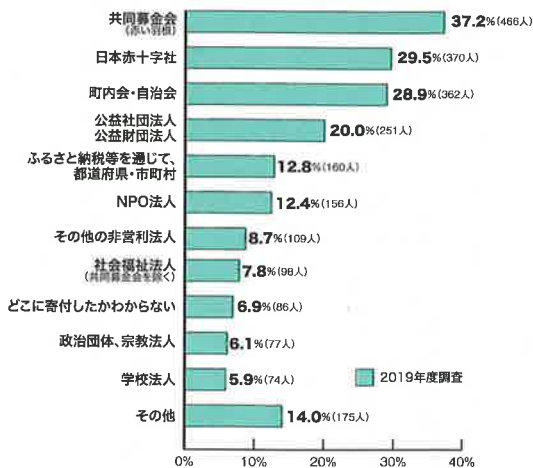
・輪の国びわ湖推進協議会

<https://www.biwako1.jp/wanokuni>





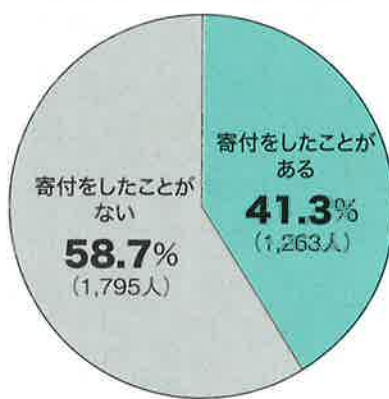
【表2】寄付をした相手(複数回答)



2018年の1年間で「寄付をしたことがある」と回答した1,263人への問(うち無回答者数:9人)  
(出典:内閣府 令和元年度市民の社会貢献に関する実態調査より)

【表1】寄付経験の有無

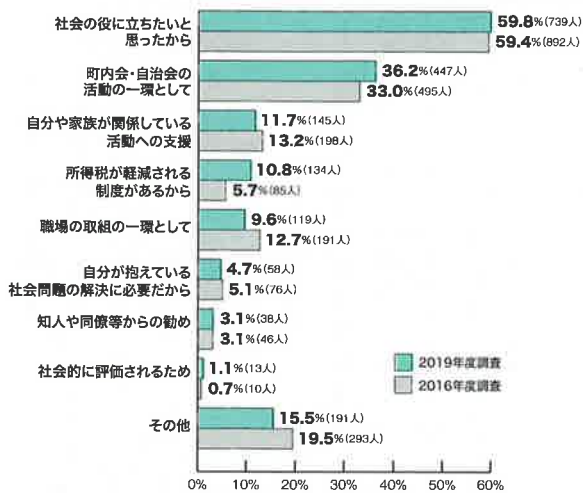
(2018年の1年間での寄付の経験)



(無回答者数:14人)  
(出典:内閣府 令和元年度市民の社会貢献に関する実態調査より)

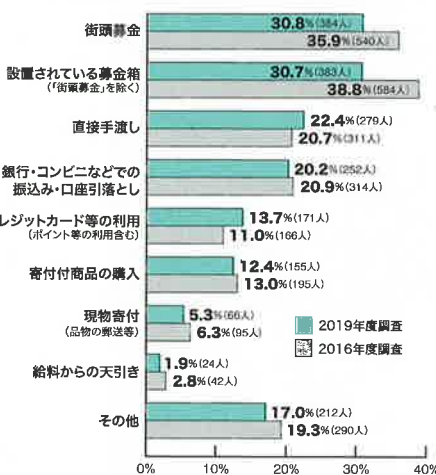
まずは、内閣府が行った「令和元年度市民の社会貢献に関する実態調査」から寄付の現状をみてみましょう。  
寄付をしたことがあるか、ないか。この調査では1年間で約4割の人が寄付をしていることがわかります(表1・参考)。  
そして、その寄付をどこにしているのかをみると「共同募金」や「日本赤十字社」の回答が多くみ

【表4】寄付をした理由(複数回答)



2018年の1年間で「寄付をしたことがある」と回答した1,263人への問(うち無回答者数:27人)  
(出典:内閣府 令和元年度市民の社会貢献に関する実態調査より)

【表3】寄付を行った方法



2018年の1年間で「寄付をしたことがある」と回答した1,263人への問(うち無回答者数:15人)  
(出典:内閣府 令和元年度市民の社会貢献に関する実態調査より)

られ(表2・参考)、寄付の方法で回答が多いのは、「街頭募金」、「設置されている募金箱」。また「クレジットカード等の利用」も増えていることから、できるだけ手軽にできる方法が好まれているようです。  
また、1年間で寄付をしたことがあるなかで、6割近い人が社会の役に立ちたいと思いい、寄付をしていることがわかります。

【表5】購入型クラウドファンディング市場規模の推移



(出典:一般社団法人 日本クラウドファンディング協会  
「クラウドファンディング市場調査報告書」より)

2019年12月までの過去累計金額(全サイト合計):451億円  
[金額の集計方法]  
●下記サイトに掲載されている全案件の募集金額(実際に起案者が集めた金額)を集計 Makuake, READYFOR, CAMPFIRE(FAAVO含む), GREEN FUNDING, Motion Gallery, Kibidango, A-port ※Makuakeのみ開示情報の範囲内で決済総額を集計 ●当協会会員の運営サイトについては集計額の内容確認を依頼、誤差が大きい場合は運営サイト側の認識額へ修正 ●集計は暦年ベースで行い、各プロジェクトの終了時点において募集額の全額が発生した前提を設けている

以上のような寄付の現状がある一方で、広く一般に定着しつつあるクラウドファンディング。最近ではテレビコマーシャルが流れるほど、その認知度も上がってきていますが、このクラウドファンディングの現状として、推移額のグラフを挙げてみました。表5をご覧ください。とわかりますが、その推移は大きく伸びています。  
「寄付が集まらずに困っている」、「寄付をするハードルが高い」などの声が聞かれるなか、クラウドファンディングはなぜ、ここまで伸びているのでしょうか。その理由は従来の寄付の方法(表3)とはまた違った独自の仕組みにあります。  
そこで、昨年成功を納めたクラウドファンディングの挑戦事例からその理由を考えてみましょう。

昨年8月にクラウドファンディングで当初目標の200万円をはるかに上回る500万円以上の寄付を集めた「安念寺いも観音保存会」の活動をサポートした観音ガールこと対馬佳菜子さんにお話を伺いました。

事例1

「こんなに応援されるとは」

観音ガールこと対馬佳菜子さんに聞く、クラウドファンディングで感じた応援

対馬さんのサポートで、クラウドファンディングを見事達成したのは、長浜市木之本町西黒田の「安念寺いも観音保存会」の皆さん。住職がない寺で、十戸足らずの村人が「いも観音」を守ってきましたが、お堂修復のための資金集めを村だけで賄うのは厳しく、クラウドファンディングに挑戦されました。

とはいえ、保存会の皆さんは高齢で、クラウドファンディングの内容も十分理解できないままのスタートだったそうですが、対馬さん曰く「ご本人たちのやる気とお堂修繕の危機感が高かった」とのこと。蓋を開ければ目標金額をはるかに上回る結果となりました。この結果に保存会の皆さんは大喜びだったようですが、それよりも驚きのほうが大きかったようです。それは、こんなにも応援してくれる人がいるということ、特にコロナ禍でそれぞれの生活が大変な時に大事なお金を「いも観音さん」のために出していただいたということが、クラウドフ

ファンディングを通してわかり、それが一番の驚きであり、喜びだったそうです。

一方、支援者側も「村を離れずと地元のごとが気になっていたが、このクラウドファンディングをきっかけに少しでも応援ができた」といった声や、「コロナ禍で出歩けないなか仏像と関わる事ができてうれしい」といった遠方からの支援者も多く、寄付金とともに寄せられた応援メッセージは保存会の皆さんの大きなモチベーションにもなったそうです。対馬さん自身も、たくさんの人に応援され支援者の純粋な気持ちがとてもよくわかりました、と話してくださいました。

このようにネットであっても支援者とふれあうことが大きな意識の変化をもたらし、特に「ネットを通して人とつながれたこと」は、十戸



▲クラウドファンディングに挑戦した「安念寺いも観音保存会」の皆さん



▲観音ガールこと対馬佳菜子さん

足らずの村の保存会にとって思わぬ副産物でした、ともおっしゃっていました。自分たちの仏像でありながら多くの人たちの仏像でもあることに気づいた保存会の皆さんは、次は実際に支援者の方に「いも観音」を拜んでもらおうと意欲を新たにされているとのことでした。

このように、自分が共感したサービスマネジメントプロジェクトに寄付することができ、自分の思いを直接届けことができる。これが、クラウドファンディングが支持される大きな理由と言えます。

ところで、「寄付をするにあたり妨げとなること」の最も多い回答は「経済的な余裕がない」となっていました(表6参照)。しかし、日々の買い物でも、寄付のような「応援」ができるということをご存知でしょうか。次に、その一例として、欲しいものを買って地元を支える「BUY LOCAL(バイローカル)プロジェクト」をご紹介します。



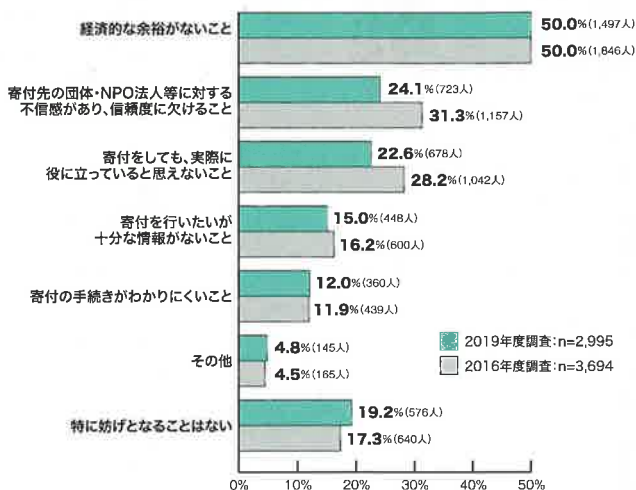
事例2

欲しいものを買って  
地元を支える。  
植田淳平さん

「BUY LOCAL」(バイロカル)プロジェクト

BUY LOCALプロジェクトを立ち上げるきっかけとなったのは、初めて国から支給される特別定額給付金だったそうです。これを皆さんは何に使うのだろうか。そんな疑問からまず、アンケートを実施されました。植田さんは、このアンケート結果から、「応援(寄付・地元のお店等)」という回答が半数近くあり、誰かのために使いたいという気持ちの方がこれほどあるんだとわかったとのこと。それならコロナ禍のいま、地元を少しでも経済を回すことができ、それが「BUY LOCAL」ではないかと思ひ、

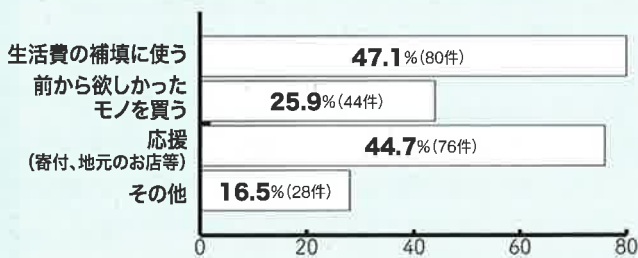
【表6】寄付をするに当たり妨げとなること(複数回答)



(無回答者数: 77人) (出典:内閣府 令和元年度市民の社会貢献に関する実態調査より)

特別定額給付金の使い道について  
事前アンケートを実施(出典:合同会社MediArt)

10万円の使い道について(複数回答: 170件)



2020年4月末から3週間、SNSにより調査。20代~60代の主に滋賀県在住者から170件の回答があった。最も多かった回答は「生活費の補填(80件、47.1%)」、次いで「応援(寄付、地元の店など)(76件、44.7%)」、「前から欲しかったモノを買う(44件、25.9%)」、「その他(28件、16.5%)」の順。

プロジェクトを立ち上げられました。  
 (※地産地消と同様、地元の商店で買うことが良質な商いを育て、地域の魅力を増すことにつながるという考え。英国やドイツにもバイロカルを掲げる運動がある。)  
 そこで、「BUY LOCAL BIRWAKO」という、主に飲食業を応援するクラウドファンディングを立ち上げると同時に、平和堂とコラボした地元商品の販売促進に力を入れたプロジェクトを進めてこられました。  
 「寄付=お金」と考えるとハードルは高くなりますが、買い物は日々の暮らしであり、ネットや大型ショッピングモールでの買い物「地元」のほうへ、ちょっと意識を変えてみてほしいと、植田さんはおっしゃいます。  
 今後、このプロジェクトは、飲食に限らず地域の宿泊施設や観光も含め、「地産地消」にこだわった事業へと展開していく予定だそうです。



▲植田淳平さん  
合同会社MediArt 代表社員/  
准認定ファンドレイザー/CAMPFIRE/  
BASE/滋賀県特化型地域商社/  
地域おこし協力隊で長浜市に定住。

「欲しいな」と思う行動が誰かの応援になる。「BUY LOCAL」で地元の応援、してみませんか。

「寄付をすることはハードルが高い、「寄付をする」ことへの距離感や抵抗感などを感じてはいませんか。ひとくちに「寄付をする」、「応援する」といっても、クラウドファンディングや「BUY LOCAL」など様々な方法があることを知っていただけたかと思ひます。「社会の役に立ちたい」、「誰かを応援したい」という皆さんの気持ちをぜひ、自分にあつた方法で実現してみませんか。

前号のインタビューで山元圭太さんより「今、日本の寄付文化が醸成されていくかどうか、ちょうど分岐点にいる」というお話をいただきました。寄付へのハードルも自分にあつた方法を見つけることで分岐点を越えていきたいですね。

さて、次号はいよいよ「寄付を、考える」の最終回です。最終回は、寄付文化が醸成されると、どんな社会が見えてくるのか、どんな社会がつかれるのか、といったことに焦点をあてて特集を組みたいと考えています。どうぞお楽しみに!

市民  
若者支援

自分たちの経験を  
フルに使い伝える

不登校の小中学生の居場所(にじっこ)や生きづらさを抱える人の居場所(おかえり)づくりをしている「NPO法人好きと生きる」は、不登校を経験したJERRYBEANS(ジェリービーンズ)というバンドメンバーの3人が立ち上げました。

不登校で生きづらかった子ども時代に会ったのをきっかけに意気投合し、好きな音楽と出会い、バンド活動から夢を持つことまでできた自らの経験を、そのまま今の子どもたちに伝えたいと、居場所づくりとともに学校を中心とした「講演ライブ」を行っています。とにかく、自分たちが経験していることが何よりの「強み」。居場所では自らの経験をもとに子どもたちと関わり、ひとつひとつの



▲音楽を通して伝わるものがいっぱいあります。子どもにとって必要なものを増やしていき、いいところを発見して「認める」ことを心がけているそうです。

またコロナ禍で家族と過ごす時間が増え、それがしんどさとなっている家庭も多いと感じるそうです。親子がお互いに少し離れる時間をとり、「心を休める」ことが何より大事で、居場所づくりでは、そこを一番考えているとのことでした。それはやはり、経験者だからこそその心配りではないかと感じました。



▲安心できる場所って大事ですね。からの参加もあり、ネットならではのつながり方もあると実感したとのことでした。

もうひとつの活動である、自分たちの経験を語り音楽で伝える「講演ライブ」は、学校を中心に行っているためコロナの影響を受けていますが、こちらもオンラインでの生ライブ配信を行うなど新しい試みにチャレンジされています。とはいえ、一日も早い生講演ライブの開催が望まれます。

設立2年、立ち上げた皆さんは若くフレッシュなエネルギーにあふれていますが、そのエネルギーからは経験者ならではの、心の痛みがわかる優しさをひしひしと感じました。これからの「好きと生きる」の活動を注目したいですね。

NPO 法人 **好きと生きる**

- 代表 / 山崎史朗、八田典之、山崎雄介
- 法人設立 / 2019年
- 連絡先 / Email: [sukitoikiru@gmail.com](mailto:sukitoikiru@gmail.com)  
HP: <https://sukitoikiru.com/>

市民  
社会福祉



音楽と花の力を添えて  
家族の受け皿に



▲和楽器、お琴に興味津々!

「音と花と人と」。この美しい団体名のとおり、「音と花と人と」は、目には見えない心の障がいや発達障がい、身体障がいなど様々な生きづらさを持つ人と、その家族が音楽と園芸を組み合わせることで少しでも心が安らぐ場所

ができればと、会長の高橋佳緒里さんが設立されました。

高橋さんご自身が、発達障がいの息子さんを持ち、家族として大変な時期を過ごされたときに園芸を通して仲間ができて心が癒された経験をお持ちでしたが、ご自身が学生時代に音楽を学ばれた際には、心の障がいや身体に障がいを持つ人たちにそれほど大きな影響を与えるものとは気づいていなかったそうです。

しかし、楽器を弾いてみたいという思いから動かなかった指が動いたり、表現したい気持ちが表れるなど大きな変化が起きることに気づき、改めて音楽療法を学ばれたそうです。こうして自らが演奏する喜びと、なかなか演奏会に行けない家族のために演奏会と園芸を組み合わせた活動が始まりました。演奏会は、楽器もピアノやハンドベル、時には和楽器も取り入れ、高橋さんの専門の声乐とその時のテーマにまつわるクイズなども交え、毎回趣向を凝らしたプログラムになっています。

こうして、地道に続けてこられた活動は、津市内からさらに県内の他地域へとその活動の場を広げていく予定ですが、苦労されているのは情報発信。当事者や家族同士だけでなく垣根を越えた交流の場へと、会としては発信方法を工夫しているところだそうです。淡海ネットワークセンターでもホームページやメールマガジンで案内していますので、一度コンサートやイベントに足を運んでみてはいかがでしょうか。



▲ハンドベルの美しい音がひろがりました(2020年クリスマスコンサートの様子)

現在、心の障がいや発達障がい、身体障がいなど生きづらさを抱えた人を持つご家族への支援はほとんどないそうです。ご自身の体験から、不安を抱えるご家族の受け皿となり一緒に乗り越えていきたいとおっしゃっていました。誰もが生きやすい世界へ。きっと音楽と花がそのパワーをおおいに発揮してくれることでしょう。

2020年度「笑顔あふれるコープしが基金」助成団体

音と花と人と

- 代表 / 高橋佳緒里
- 設立 / 2018年
- 連絡先 / Email: [totonokai@gmail.com](mailto:totonokai@gmail.com)  
HP: <https://otohanahito.web.fc2.com/>





社会貢献する

「世間よし」企業紹介



誰かの夢や想いを大津からつなぐ



▲次世代チョコレートと言われる「キャロブ」を使ったお菓子たち

JR大津駅近くにある37company合同会社は、大津市では数少ないレンタルスペースの運営とモロッコで農薬を使わず自生で育てている「キャロブ」というマメ科の植物を使った商品開発と販売をされている会社です。レンタルスペースとモロッコの植物——その経緯について代表の田畑里佳さんにお話をうかがいました。

田畑さんが、大津で何かをしたいと思ったきっかけは、東京から移住してきた当時、子どもも小さく右も左もわからないなか、いろんな人に助けってもらった経験から、何か恩返しをしたいとの思いからだそうです。最初は家を借りにくいひとり暮らしの高齢者を対象にした不動産業からスタート。続いて、もっと人が交流できる場所がつかれないかと考えていたところ、お店を持ちたいが諦めている人たちが周りに多いことに気づき、それならその夢を叶えてもらおうと、レンタルスペースの運営を始めたそうです。今では、様々なお店がオープン。たくさんの人が集まる人気のスポットとなっています。

一方、「キャロブ」ですが、これは田畑さんのお姉さんからJICAの活動でモロッコに滞在中、「キャロブという体に優しくてチョコレートに代わる植物があるよ」と教えてもらったことがきっかけだったそうです。帰国されたお姉さんはモロッコで滞在した貧困地域の女性の自立支援事業を立ち上げられ、何か姉の手助けができないかと考えておられた田畑さんは、「キャロブ」を使った商品開発が、モロッコの貧困地域の自立支援策の一つになればとの思いで、商品化をめざしたそうです。商品開発は、大津市の障害福祉サービス事業所「れもん会社」に依頼。キャロブとともに原料をできるだけ滋賀県産にこだわり、焼き菓子を中心に心を込めて、「れもん会社」が手づくりされています。

このように、誰かの夢を叶え交流できる「場」と、食べるだけで遥か

彼方のモロッコの支援につながり、つづいている人たちの力にもなる「お菓子」。一見つながりがないようですが、どちらも誰かの夢や想いが叶い、つながるようにと田畑さんの願いが大津から広がっているようでした。



▲レンタルスペースの外観・様々なお店がオープンします

## 37company合同会社

- 代表 / 田畑里佳
- 設立 / 2017年
- 連絡先 / 滋賀県大津市春日町5-3  
Email : sisters-favorites@37company.co.jp  
HP : <https://www.sisters-favorites.com/>



障害者支援

支援する、されるは関係なし！  
畑は同じフィールドです

うかがったのは栗東市にある「NPO法人縁活」さん。今回は、そのなかでも農作業を中心とした就労継続支援B型事業所の「おもや」を紹介します。

この「おもや」は、滋賀県内では珍しい農作業を就労支援とした福祉作業所で、農法も自然栽培に取り組まれています。新しい福祉事業所のあり方にトライされている杉田健一さんにお話をうかがいました。



▲笑顔が魅力の杉田さん

なぜ農作業なのか。農作業は一年を通して季節や作物によって作業が変わるため大変ではあるが、作物をつくり収穫するという目的に皆が向かえるので、自然とチームワークができること。数ある作業の得意、不得意を補い合い、汗をかいて励まし合いながらの作業は、学生時代の部活動のようであり、就労支援として適しているのではないかと杉田さんはおっしゃいます。また、畑ではスタッフも利用者も同じ作業をすることから畑では対等の立場。これも農作業だからこそだといいます。

こうしたなかで、体によく、もっと「おいしい」野菜づくりをめざして2013年から、農薬も肥料も除草剤も使わず自然の恵みを十分に生かした農法、自然栽培にチャレンジ。試行錯誤のなか、安心でおいしい野菜づくりは、地域の人たちにも受け入れられるようになり、近隣の小学校と新たな取り組みがスタートするなど、すっかり地域に根ざした取り組みになっています。



▲汗水流す農作業は決して楽な作業ではありません。でも収穫時には笑顔が！

一方、「おもや」のように福祉事業所が自然栽培を農法に取り入れ、農作業を就労支援とする取り組みは、「農福連携 自然栽培パーティー 全国協議会」という全国組織として2015年に立ち上がりました。これは、障害者と地域をつなぎ自然栽培の農業を全国に広げていく活動で、杉田さんは、その副代表を務め、地元から全国へと活躍されています。明るく元気いっぱいのお話を聞いていると、「おもや」の畑からは、安心でおいしい作物以外に、いろんな人が関わり、楽しいことも生まれるところだと、感じた取材でした。「おもや」の野菜は守山、膳所のコープ、「おもやキッチン」で手に入ります。ぜひお試しください！

## 特定非営利活動法人 縁活

- 代表 / 杉田聡司
- 法人設立 / 2009年
- 連絡先 / 滋賀県栗東市雲仙寺一丁目3-24  
TEL : 077-598-5368  
HP : <https://enkatsu.or.jp/index.html>

# チェンジ Changeにチャレンジ! 応援BOX

市民活動を応援する淡海ネットワークセンターの  
事業をご紹介します。



イベント

## 2020年度未来ファンドおうみ 助成事業成果発表会を開催します。

◇日時:2021年5月15日(土)午後

◇会場:滋賀県立県民交流センター207会議室(ピアザ淡海2階)

※開始時刻の詳細は、当センターホームページをご覧ください。

## 成果発表団体

### ■びわこ市民活動応援基金A

団体名	事業名
ぼてじゃこトラスト (大津市)	滋賀の魚つかみ文化を次世代につなぐ、楽しく遊び、学ぶ親子自然体験教室
特定非営利活動法人あめんど (大津市)	子ども未来塾

### ■びわ湖の日基金

団体名	事業名
白鳥川の景観を良くする会 (近江八幡市)	白鳥川桜並木の育成管理で、市民憩いの散策路造りと環境学習支援

### ■積水化成成品基金

団体名	事業名
NPO法人環境と農業の融合を 考える会鹿深の杜(甲賀市)	地域(里山)環境整備と環境学習の場の提供

### ■笑顔あふれるコープしが基金

団体名	事業名
特定非営利活動法人やんちゃ寺 (草津市)	子どもの居場所・子ども食堂のための健全育成事業
音と花と人と (大津市)	音楽や草花と触れあい、茶話会で思いを共有できる継続的な活動

### ■ナカザワNEOフレンドシップ基金

団体名	事業名
特定非営利活動法人長浜市民 国際交流協会(長浜市)	ながはまの未来につながる子どもを創る「多文化・親子育ちプログラム」

### ■げんさん食育NPO基金

団体名	事業名
特定非営利活動法人滋賀自閉症 研究会たんぼぼ(草津市)	「食べたい」から育てる自閉症児の「コミュニケーション」

### ■湖国文学活動応援むらさき基金

団体名	事業名
西の湖あそび隊 (近江八幡市)	「あづちのふるさとばなし」音声アーカイブの作成と公開

### ■びわ湖源流の木遣い応援もえぎ基金①

団体名	事業名
東近江市あらゆる場面で木を使う 推進協議会(東近江市)	100年の森づくりビジョン 東近江市・あらゆる場面で木を使うプロジェクト
ママパスポートこうか (甲賀市)	木育!妊婦さん、ママ、赤ちゃんに木を使う大切さを伝える

### ■びわ湖源流の木遣い応援もえぎ基金②

団体名	事業名
NPO法人コミュニティ ねっとわーく高島(高島市)	森と人がつながる「たかしまの森へ行こう!プロジェクト」 森林調査リーダー研修と炭焼き人材育成と炭の活用開発事業



募集

## おうみ未来塾第16期 塾生募集(予告)

地域社会の課題を発見し、解決のための方策を考え、そのための活動を実践する人「地域プロデューサー」が育つことをめざし、おうみ未来塾を開講します。18歳以上で地域の課題解決や市民活動に主体的に取り組み意欲があれば誰でも歓迎!是非ご応募ください!

●「おうみ未来塾」とは…市民活動やNPOが、地域運営の一翼を担う時代となった今、創造力とネットワークにより、企業や行政だけでは解決できない地域課題に取り組む人が求められています。おうみ未来塾はこうした課題に取り組む「地域プロデューサー」が育つ塾をめざしています。年齢や所属を問わない多彩な塾生による構成も「おうみ未来塾」の特徴です。

●「地域プロデューサー」とは…地域の課題を発見し、解決のための方策を考え、そのための運動や事業をおこなうことのできる人です。言い換えれば、市民力、事業力、ネットワーク力を兼ね備えた人のことです。おうみ未来塾では、こうした地域プロデューサーに求められる能力を養うことを中心に取り組みます。

◇受講期間/2021年8月~2022年12月

◇募集開始・募集説明会/2021年6月(予定)

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止策を十分講じた上で、一部オンラインも活用しながら塾を運営してまいります。詳細は当センターホームページをご覧ください(募集案内は2021年5月頃掲載予定)。



講座

## 社会的インパクト評価 オンラインセミナー 「事業の価値を再発見 する評価」入門編②

◇開催日時 2021年3月23日(火) 13時30分~16時00分

◇講師 一般財団法人 インパクト・マネジメント・ラボ

千葉 直紀さん、鎌田 淳さん

◇開催方法 Zoomによるオンラインセミナー ◇参加費 無料

◇主な内容 ・ロジックモデル作成ワーク ・指標や目標の設定

・社会的インパクト評価を活用したマネジメントの回し方 など

※申込方法など詳細については、後日ご案内させていただきます。

## 編集後記

■連載特集の今号は、クラウドファンディングや地元での買い物が応援になるなど自分の好きな方法で寄付ができることを事例でご紹介しました。好きな方法なら寄付が身近なものになりそうです。次号は連載の最終号!ぜひ、最後まで読んでくださると幸いです。(辻ゆかり)



Ohmi Network Center  
淡海ネットワークセンター

公益財団法人 淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

■情報交流誌「おうみネット」は登録いただいている県内外の団体・個人のほか、次のところに配布しています。

(50音順)

関西みらい銀行、京都信用金庫、県内公民館、県内公立施設、県内市民活動支援センター、県内社会福祉協議会、県内市役所・役場、県内図書館、県内中学校・高校・大学、滋賀銀行、滋賀県信用組合、滋賀県庁、生活協同組合コープしが、他

〒520-0801 大津市におの浜 1-1-20 ピアザ淡海 2階

TEL: 077-524-8440 FAX: 077-524-8442

https://www.ohmi-net.com E-mail: office@ohmi-net.com

開館日: 〇市民活動ふらっとルーム/火~土曜日(火=金曜日の日は休館)

〇事務所/火~日曜日

淡海ネットワークセンターのHPは右記QRコードでご覧いただけます。セミナーや助成金、イベント情報も掲載しておりますので、ぜひご利用ください。



## 公益財団法人 関西みらい銀行緑と水の基金

滋賀県内において、緑化推進や水環境保全に取り組まれている自治会や住民グループなど地域団体の皆様の活動に対し、助成申請をいただいた事業の書類審査を行い、最大30万円までの助成を行います。  
詳しくは、ホームページをご覧ください。

〒520-0043 滋賀県大津市中央四丁目5番12号 (TEL.077-521-1545)

ホームページ <https://www.gw-kikin.or.jp>



この印刷物は大豆油インキを包含した植物油インキを使用しています。